

Ⅲ. HTLV-I キャリアのカウンセリングの進め方とポイント

長崎県指導者用テキストより

(1) 告知によって受けると予想されるキャリアの心理的不安

- 1) 発症に対する不安（ATLがいつ発症するかなど）
- 2) 育児についての不安
 - ・ どの程度のスキンシップで感染のおそれがあるのか
 - ・ 母乳をやらないことで子どもへのスキンシップが減少し、その影響が出るのではないかという不安
 - ・ 親としての自信ができない
 - ・ 子どもが泣いても母乳を与えられないと何もしてあげられないと感じる
- 3) 自分以外への感染
結婚をしない（できない）、子どもを作らない等の判断に至る場合もある
- 4) 罪悪感
 - ・ 母乳をやれない。（妊婦）
 - ・ 妻や子に感染させた。（母、夫）
- 5) 抗体陽性が周囲に知られることのおそれ
- 6) 知られた場合の周囲からの差別
- 7) うつされたという不満感、被害者意識（子、妻）
- 8) 周囲に真実を話せない
- 9) 家族やパートナーに話せたとしてもどう伝えてよいかわからない
- 10) 夫以外からの感染に対する不安
- 11) 母乳をやっていないことに対する周囲からの冷たい視線

(2) カウンセリングとは

本人や家族等相談に来た人（クライアント）が不安や悩みを解決・対応していくために行われます。

まず、クライアントに関心を示し、苦しい気持ち、悩まずにいられない気持ち、寂しさ、きつさを支え、本人の気持ち・感情を受け取ります。……キャリアになったこと、病気の不安、子どもへの感染の不安、母乳をあげられない残念さ、家族にどう受け止めてもらえるかの不安、等々

(3) HTLV-I キャリアの心理状況理解のために

- 1) いかなる疾患でも「病気」になることは「健康なはずの私がもう健康でない。」こととなります。
- 2) 自分自身がキャリアであることを受け入れて行く心のプロセスは、癌や障害の受け入れなどと同じ「対象喪失」とよばれる心のプロセスをたどります。
 - ・ ショック期：無関心や離人症的な状態
 - ・ 否認期：心理的な防衛反応としておこってくる否認
 - ・ 混乱期：怒りや恨みにとらえられ、悲しみや抑鬱におちいる
 - ・ 努力期：責任を感じとり依存から解放、価値の転換をめざす
 - ・ 受容期：障害や疾病の受け入れ

- 3) HTLV-Iキャリアであると告げられた女性は、キャリアになったので「健康な体」でない、母乳をあげられないので「ふつうの母親でない」、「親として失格」と考えます。それまでのイメージやこれからの楽しい夢いっぱいの育児への理想を失い、自分および周囲に対して罪悪感を持ちます。

(4) カウンセリングの流れと進め方

	相談者の様子	カウンセリングの注意点	聴き方
導入期	<p>自分の悩みを でる（ ）</p> <p>になにを悩んでいるか れない状態、とりとめなく り、感情的になったりする。「キャリアになってしまったどうしよう」「子どもにうつしてしまおう」、「母乳があげられない私は母親失格」</p>	<p>られる 容を きながら、なにをどのように悩み、これまでの対応を 理する。</p> <p>解、認識不 など 実的に対応できることはま ず行う。</p> <p>相談者との に信 関をつくる。</p> <p>「そ なことはないですよ」「 夫ですよ」とはに わない。</p>	<p>相 の話にす えや指示を出さず「う う」「あ、そうですか」等うな ずいたりあい ちをうち、分に相 の話を聴く。</p> <p>たくさ られたときは、「その で何が おりですか 」と き、を 理する。</p>
展開期	<p>気になっていた のにある様々な感情に気がつく。「私が病気になるはずがない・・・」、「母乳をのませられないのは母親失格」と う いこみ、「子どもに感染させた罪悪感」、「家族に 放されるのでないかという不安」</p>	<p>られる話 ・ を、相談者と に 理して く。「な 気になったのか」等話 にする。</p> <p>にして られることで、感情が 理され、情的混乱から ちなおる。</p>	<p>「・・・と う です 」と相 の うことを りし、「自分を責めてしま うのです 」「自分さえ気をつけていれば かったのにと ってしまうのです 。」と相 の気持ちをくみ取りながら聴く。</p>
終結期	<p>混乱していた感情が 理され、 に かい合えるようになる。「私は私で、キャリアになっても わらない」、「母乳 けが母親である でない」「家族は信 できる」</p>	<p>本人の行 の 終決を る。</p>	<p>き の意 を く出さない。出すときは「私は と います。」などです。</p> <p>「・・・と考えるようになったのです 。」と支持する。</p> <p>「また心 になったときはいつでも相談にいらっ し い」と伝える。</p>

() カウンセリングのポイント

- 1) カウンセリングは「話させる」ことではないし、ただ聞いてあげることでもありません。
- 2) カウンセリングは、などを与えることではありません。解決してあげるのではなく、にそのにき合い、の状況に対して自分で決めていくことプロセスの です。
- 3) カウンセリングの「やり方」にこわるのではなく、「あり方」が です。
- 4) あくまでクライアントの気持ちをすることが です。
- 5) 度に そうな 情をしたり えたりするのではなく、また場を ませようとして 度に 長的になるのでもなく、く自 な態度で することが です。
- 6) 「こう話そう」とあまり決めてかからない方が い場合が いようです。
- 7) には や泣いたりするカ シスする も受け入れるのに になります。
- 8) 妊婦、母親等は「自ら でキャリアになったのではない」という 本的 実を 念 において対応することが です。
- 9) き を 考に 実を伝えてく さい。た し、 等については場合によっては無用な不安を与えないように する があります。
「 発症 が20人に1人」は「 キャリア1 人に1人」、「たばこを う人が 癌になる と同じ」と同じ意 になるので、 2者を う方が受ける感じがやわらかくなる。
- 10) あせらないでく さい。キャリアであることを受容して行くには がかかります。
- 11) き からは「しょうがないですよ」、「もうどうしようもないですから」と わないでく さい。
- 12) 妊婦の を してく さい。

の感染について

、母子 、 女 の感染 以外の感染については とならないので、 の感染予防に に注意す き点はありません。た し、 や ウイ スなど をして感染する疾患もあることから、これらの疾患に対する注意を念 に いて に わる があります。

は に めて いウイ スで、どのような でも不 できます。

注 による での 感染は感染 を に な場合以外は めてまれます。た し、 をおこした は、 した の周りをつま で を り出すくらいしか方 はありません。

持

- (1) キャリアに関する情 はす て 格に を る があり、妊婦（母親）のプライ シーの には 分注意してく さい。
- (2) 妊婦の家族に知られると家 を き こす場合があることに注意してく さい。
- (3) ・ ・妊婦の指導以外にキャリアのリストをつくらなくて さい。

- (4) 婦人・健児は家族のとが知っているかをしておくことがです。
- () 病などではの者(等)以外はATLのをしないようにしてください。

キャリア妊婦、キャリア母親への健児、児へのアンケートの中で「こんなことをいわれた」「こんな状況であった」というキャリア母親からのがあったとのこと。はこのようなことはとどないとありますが考になればといます。

1) 関で

- ・パンット等もなく、またからの分ながない状況で行われた。
- ・入、さからきなで「この人から乳の入れなかしなくていいのよ」といわれた。
- ・キャリアということで離された。(かなりの話)
- ・母乳の人と同じになり、いたたまれなかった。
- ・乳の入れをしていたのに無になった。くわかっていれば入れなかしなかったのに。
- ・さから「私ったら母乳にするわ」とわれた。
- ・関によって話がう(人と期母乳)
- ・児で「キャリアはです」といわれ、また鬱々となってしまった。

2) 健康で

- ・健さから「私ったら母乳にするわ」とわれた。
- ・人の理をしつこくかれた。

するとくの受け取り方の差があるかもしれませんが、このように感じた母親もいます。また、ついつい出た何気ないがになる場合もありますので、者は妊婦(母親)へのをよしくおいします。